



取組事例集

「ディスカバー農山漁村の宝」(第6回選定)応募団体



お問い合わせ先

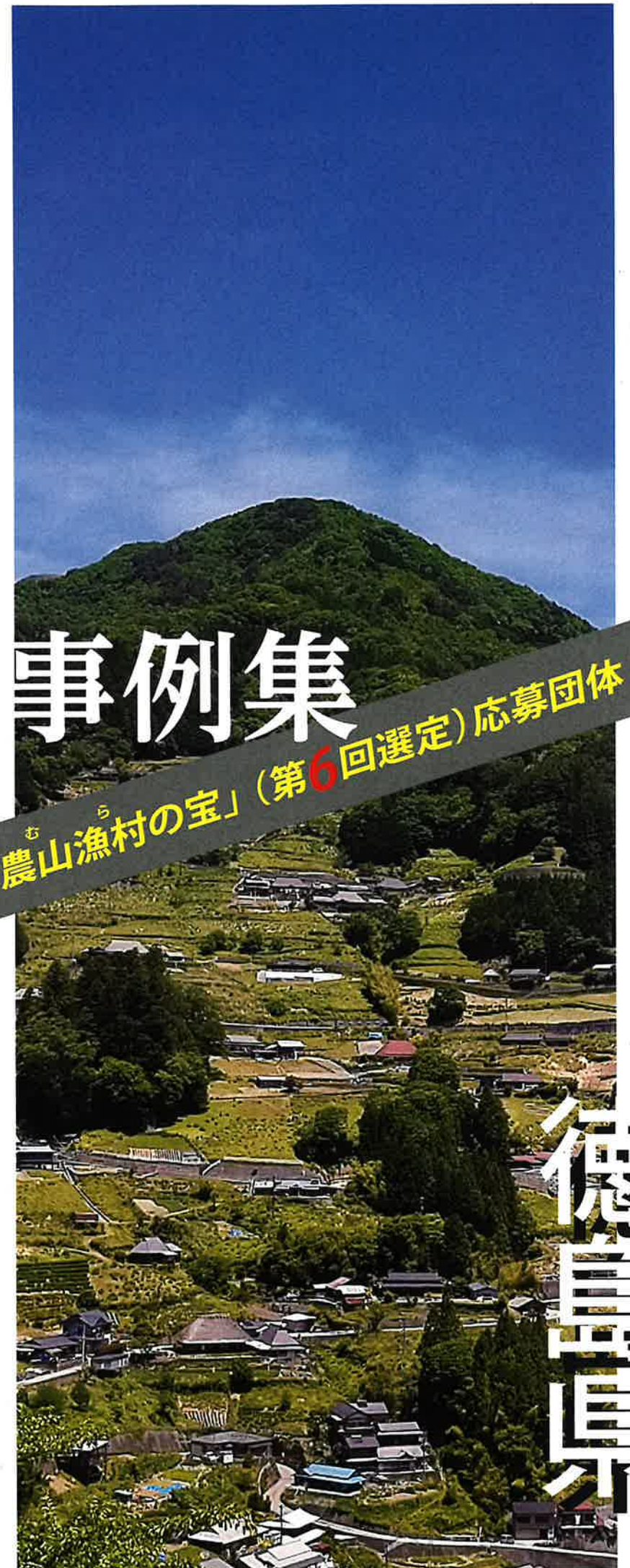
中国四国農政局徳島県拠点

〒770-0943 徳島県徳島市中昭和町 2丁目 32番地 ☎088-622-6131

中国四国農政局農村振興部農村計画課

〒700-8532 岡山県岡山市北区下石井 1丁目 4番 1号 ☎086-224-4511

令和2年3月
中国四国農政局



徳島県

発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度（令和元年度）で6回目となります。

中国四国農政局管内では220件の応募があり、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として6地区と1名（全国31地区と5名）が選定されました。

さらに、中国四国農政局では、応募のあった地区の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として21地区と3名を選定するとともに、今年度から今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として14地区と5名を選定しました。

また、今年度応募のあった地区の事例について、その地域での「農山漁村（むら）の宝」として広く情報発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、各県別の事例集を作成しました。

各地域において参考にしていただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページ（下記URL）をご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>



令和2年3月
中国四国農政局農村振興部

目 次

○ 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」について ……	1
○ 応募団体一覧 ……………	8
○ 応募団体位置図 ……………	9
○ 応募団体の取組事例 ……………	10

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」について

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国へ発信するものです。

1. 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第6回選定）

今回の「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第6回選定）では、令和元年7月1日から9月2日までに、農山漁村活性化の取組として全国から931件（管内からは220件）の応募があり、10月21日に首相官邸で開催された第3回有識者懇談会において団体部門（コミュニティ部門及びビジネス部門）として31地区と今回より新設された個人部門として5名が選定されました。

12月3日開催の選定授与式及び交流会では、選定地区の代表者を首相官邸に招いて選定証を授与し、内閣総理大臣、農林水産大臣、地方創生担当大臣からの直接の激励や地域リーダー同士の交流が行われました。また、12月4日には「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の紹介や選定地区の知名度向上に資するため、東京都内で選定地区による即売会（マルシェ）が開催されました。

中国四国農政局管内から優良事例として6地区と1名が選定され、その中から最優良地区のグランプリに島根県大田市の「株式会社 魚の屋」が選定されました。



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」交流会



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」ロゴマーク

2. 中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」

中国四国農政局では、管内で応募のあった220件の中から、他地域の参考となるような優れた地域活性化の事例を「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として広く発信することとし、令和元年11月、中国四国農政局において選定委員会を開催し、21地区と3名を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を奨励賞として14地区と5名を選定しました。



中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」

選定地区オリジナルロゴマーク

(1) 全国版選定地区〔管内〕の概要（ディスカバー農山漁村（むら）の宝（第6回選定））

株式会社 魚の屋（島根県大田市） **グランプリ受賞地区**

- 国内市場が1%しかない天然わかめの刈りとりを漁師に依頼し、それをもとに新商品開発と販売を実施。
- 天然わかめの加工処理について、加工場で行うほか、障がい者就労施設や一人暮らしの高齢者に作業の一部を委託。



天然わかめを採取している姿

浄謙寺（広島県北広島町）

- 地域の魅力と仏教を伝えるため、地元産野菜を用いて作ることが可能なイタリアン精進料理の取組を実施。
- 料理の提供だけではなく、住職とともに読経や説法も合わせて実施。



食前の法話風景

株式会社 三見シーマザーズ（山口県萩市）

- 規格外の魚を収入に繋げるとともに、食事に困っている一人暮らしの高齢者へ食事を宅配しようと、弁当・惣菜の加工・販売の取組を実施。
- 道の駅のレストランを運営し、鮮度の高い地元産の魚料理を提供。
- 小中学生を対象に料理教室を実施し地元の魚のおいしさを伝える。



高齢者宅へのお弁当・お惣菜の宅配

新居 希予（徳島県阿南市）

- 結婚により12代続く米農家で栽培に従事し、農業の厳しさや農産物の将来性、地域の魅力などを伝えることの重要性を痛感し、わかりやすく消費者に伝える「表現する農業」の取組を実施。
- 伝統黒米「弥生紫」の唯一の生産農家として伝統を継承する傍ら、地元テレビやyoutubeでの配信、学校の農業体験などにより生産現場から情報発信。



食いしん坊図絵を作成し食育、メディアで活用

愛媛県立 宇和島水産高等学校水産食品研究部「フィッシュガール」
(愛媛県宇和島市)

- 愛媛県産魚のPRを行うため、産官学の連携の下で女子生徒が養殖クロマグロの解体ショーや加工品開発、魚食の実演販売を実施。
- 「ブリ大根缶詰」や「鯛めしの素缶詰」等の開発製品を国内外で販売。



ハワイでのマグロ解体

農業生産法人 株式会社 ミヤモトオレンジガーデン（愛媛県八幡浜市）

- 「農業を事業として取り組む」との考えで、グローバルGAPや6次産業化に積極的に取組ながら、みかんの農業法人を運営。
- 廃棄していた摘果みかんを調味料「塩みかん」に活用するほか、GAP認証取得支援システムを開発し、他社の取得を支援。



GAP 経営研究会を開催

農事組合法人 ヒューマンライフ土佐（高知県越知町）

- 山間部の傾斜地でも栽培可能で軽量なため高齢者でも作業ができる生薬を製薬会社との契約栽培で生産。
- 乾燥・調製等の加工作業は他の産地からも集荷して行い、製薬会社に納品。



土佐ツムラの森にて中学生の薬草採取体験

（２） 地方版選定地区の概要（中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」）

農業生産法人 株式会社 D's プランニング（鳥取県大山町）

- 勤務体系はサラリーマン並みを目指し、早朝出勤した場合は夕方早く帰宅できるよう配慮されている。また、子育て世代のお母さんや年配の方でも作業ができるよう棚の高さや作業工程など工夫している。
- 制服（作業着）やホームページの作成にこだわりを持ち、今までの農業のイメージとは違う情報発信をおこない雇用の確保に努めている。
- 2018年 ISO9001 取得



日々切磋琢磨し、頑張っています！

出雲市斐川土地改良区（島根県出雲市）

- 次世代を担う子供達を対象に平成12年度から出前授業、遊水池で行う生き物調査などを実施。
- 非農家も参加した水路の草刈や泥上、子供達も参加した「花のまちひかわ」の活性化に向けた植栽活動、水路脇の親水公園を活用したホタルの育成を実施。
- 米米（まいまい）田んぼとして、給食用米の田植えや稲刈り体験を実施。



保育園児と地元住民による植栽活動

株式会社 おおち山くじら（島根県美郷町）

- 町内で捕獲されるイノシシの約7割を集約し「おおち山くじら」という地域ブランド商品として確立し、全国へ販売展開。
- ポトフやカレーなどの6次産業化やイノシシの内臓は、ペットフード商品の原料などに活用。
- 革製品の制作により、女性・高齢者活躍の場の創出。



地域の女性部による革製品の製作

岡山県立 岡山南高等学校商業クラブ（岡山県岡山市）

- 米トレーサビリティ制度の勉強会を行い、制度の概要や社会的役割について学ぶ。
- 「駅弁」を企画することを決め、地元企業「株式会社三好野本店」に製造を委託。
- 農業が盛んな岡山県の特性を生かした、米だけでなく、様々な県産品を使った駅弁を開発し、発売までを実現。



休校日を使って定期的に販売会を開催

合同会社 ど根性ファーム（岡山県笠岡市）

- 通年栽培が可能な青ねぎを栽培。
- 障がい者・高齢者の作業の多様性創出と収益性アップのため、カットネギの製造に取り組み、6次産業化の認定を受ける。
- 生産から加工に係る作業工程において、座って作業ができる環境を整備するなど、働き手が作業しやすい環境を整備している。



座って作業できる環境を整備

みかわてらす（岡山県矢掛町）

- 専門家のアドバイスを得ながら、地域内にある農産物を活用した商品の開発を行った。
- 商品のコンセプトは「フタを開けてすぐ野菜が食べられる」等、健康志向の高い女性をターゲットとした商品開発に取り組み、パッケージ等にまでこだわった「陽気なピクルス」を開発した。
- カフェ「えんがわ食堂」をオープンし、ピクルスを使った食事を提供。



陽気なピクルス

農事組合法人 よしやま（広島県広島市）

- 農業体験教室の実施。
- 地元企業との連携による経営の安定化、及び地区の活性化。（メーカーとの契約栽培、ミニ道の駅（Oishi 吉山）の誘致、地区内レストランとの連携）
- 地区内での積極的雇用。植え付け、収穫期に年間延べ2,000人のアルバイトを雇用。



農業体験教室

株式会社 敷信村農吉（広島県庄原市）

- 自社農場米や地元旬野菜を使用した給食の提供、園庭での野菜を栽培など、農が身近にある地域特性を生かした保育を実践。
- 農家所得の向上や地域内交流の活性化のため、H20年に野菜の販売や卸を開始。耕作放棄地を活用した自社農場もスタート。
- 「日本の酪農の礎を築いた地」であることを知った地域の若者の希望を受け、H25年にチーズ工房を新設。



農とともに、地域とともにある保育の実践

本多 正樹（広島県安芸高田市）

- 農地中間管理機構を活用し、担い手間で農地を交換。
- 新規、若手農業者の横の連携を主軸に「新規就農者激励会」というイベントを立ち上げ、若者が地域で活動している事例を発信。
- 地元JA管内の若手農業者グループ「ひろほく農考会」の初代会長。地域の農業をあらゆる角度から考えるため、視察や意見交換などの活動に取り組む。



配食弁当でこだわりのお米を提供しているほ場

株式会社 ハートランドひろしま（広島県北広島町）

- 省エネ・環境にやさしいフィールド養液栽培で、ホウレンソウを通年栽培。利用者が整地、収穫、選別、袋詰め等の全作業を行う。
- ミニトマト、大根、白ねぎ等をハウスや露地で栽培。ミニトマトは、各ハウスを担当制にし、利用者1名が責任を持って管理を行う。
- 組合員の家族が実際に農業を体験できる場として、組合員交流を年8回開催し、農業や福祉への理解を促進。



養液栽培のホウレンソウと利用者

株式会社 秋川牧園（山口県山口市）

- 地元農家と飼料用米生産のネットワークを形成。米農家の技術を活用しつつ、グループで行う視察会を通じて栽培技術の向上と生産意欲を拡大。耕作放棄地を復活。
- 多収専用品種の飼料用米を給餌した鶏の堆肥を飼料用米の栽培圃場に投与し、理想的な循環型農業を実現。
- 飼料用米多収日本一コンテストへの応募。グループから平成29年の農林水産大臣賞（日本一）受賞を筆頭に毎年受賞者を輩出。



年2回実施する、飼料用米検討視察会の様子

株式会社 木原製作所（山口県山口市）

- “地域創生”として企画立案、乾燥技術提供、試作品開発、パッケージデザイン提案、保存・販売アドバイス、商標登録実務までを無償で行い、市内事業者の商品開発をサポート。
- 事業者とともに、ドライフルーツ、漢方薬原料、和紙、パン、花のふりかけ、カレー等、従来の乾物のイメージを覆す多彩な利用方法と商品を開発。



開発商品の合同販促体験

特定非営利活動法人 ゆや棚田景観保存会（山口県長門市）

- 耕作放棄地を無償で借り受け、さつま芋や景観作物の植付、ハーブの植付による鳥獣害対策など、棚田の保全活動を実施。
- 小中学生を対象とした花香づくり・昆虫トレール教室、いも掘り体験の受入など、体験教室を開催。



夏休み宿題お助けツアー：昆虫とれ～る

株式会社 農家ソムリエーズ（徳島県徳島市）

- 香港、台湾、マレーシア等のアジア圏へ輸出を行い、県や地域商社と連携し、現地でイベント販売とプロモーションを実施。
- サツマイモチップス「おさっち」を開発・販売。自社生産した「なると金時」を使用し、生産、加工及び販売を行う6次産業化を実現。
- 地域の子どもたちに栽培体験を通じた食育の推進。



なると金時チップス おさっち

GOTTSO 阿波（徳島県阿波市）

- GOTTSO（ごっつお）とは阿波弁で「ごちそう」という意味。野菜の出張販売や広報などを行い、農業の盛り返しを図る。
- 「美～ナス」を使い、幼稚園や小学校での食育を通じて、消費量増加への取組を行っている。
- 「グローバル GAP」、「とくしま安2 GAP 農産物」認証の優秀認定」を取得し、東京オリンピック・パラリンピックの選手村に「GOTTSO 美～ナス」の納品を目指す。



2019 年度 PR 用ポスター

西岡田 治 治（徳島県つるぎ町）

- 標高 300m、傾斜 30 度の急傾斜地の畑 20a で栽培しているソバの花が満開の毎年 9 月下旬から 10 月中旬に観光農園として一般開放し、急傾斜地農耕を実感してもらっている。
- 平成 27 年、旧暦 10 月の最初の亥の日に行われる地域の伝統的農耕行事「お亥の子さん」を、地域の小学生とともに 25 年振りに復活させた。



花咲くソバ畑

有限会社 赤松牧場（香川県高松市）

- 赤松牧場が堆肥を供給した圃場で、耕種農家が稲 WCS を栽培し、生産した稲 WCS を飼料として畜産農家へ供給。平成 28 年に WCS 生産組合を設立し、平成 30 年には耕種農家 14 名で、栽培面積を 20ha まで拡大。
- 堆肥調整保管施設の整備等を実施し、耕畜連携の可能性を拡大。
- ジェラートショップは地産地消のため、近隣農家のブドウ・イチゴ等を仕入れて利用。



堆肥を利用して栽培したトウモロコシの収穫

香川用水土地改良区（香川県高松市）

- 平成 29 年 7 月に香川用水記念会館の移転整備を行い、新たな記念会館を拠点とする情報の発信。
- 小学 4 年生を対象に出前授業を開催し、併せて香川用水施設の見学と幹線用水路内の清掃作業を実施。
- 幹線用水路（59km）について、地域住民のボランティアに巡視員を委嘱し、地域住民と一体となった施設巡視体制を構築。



香川用水幹線水路・開水路区間

阿部 隆弘（香川県三木町）

- JA 関係者と障がい者の工賃値上げ交渉を行い、単価の値上げ、休日の割増賃金及び交通費の支給を実現し、申し合わせ書を作成した。
- 市町と連携して障がい者就労施設を対象とした参入促進説明会や技術研修会の開催、農福連携による農作業の説明用マニュアルを作成している。



平成 30 年度 農作業支援強化研修会・琴平

四海漁業協同組合（香川県土庄町）

- 「小豆島 島鯉」を名乗るため、4つの基準を設け、他地域との差別化を図る。
- 島内業者が水揚げしたハモを共同出荷することにより安定した品質・出荷量を確保。
- 加工品の開発を可能とするため、ハモ骨切機、大型真空包装機等を導入し、骨切を行ったハモの販売（1次加工品）に取り組む。
- 京都産業大学と連携し、情報発信を強化。



小豆島島鯉まつり・初出荷式

株式会社 玉津柑橘倶楽部（愛媛県宇和島市）

- 被災直後、玉津クラウドファンディングを立ち上げ、全国からの義援金はスプリンクラー施設の補修費に充当。
- ボランティア、アルバイトの受入れには宿泊施設が無いいため受入人数に制約があったが、JA えひめ南と連携し研修施設を開設。
- 生産者の所得向上を目的に、みかんや宇和ゴールド（河内晩柑）のジュースを商品化。



玉津オリジナルみかんジュース

道の駅よって西土佐（株式会社 西土佐ふるさと市） （高知県四万十市）

- 新たな名物として、地域の食文化を尊重しつつ「洋」を取り入れた、四万十天然鮎を使った「鮎のコンフィ」を開発。
- 生きた鮎を築地市場へ運ぶための品質管理、流通技術・管理を開発。現在天然活魚を豊洲市場に送っているのは四万十川のみ。
- 上流から下流まで「全漁協による四万十鮎ブランドプロジェクトチーム」発足。



日本で唯一鮎市場のある道の駅

農事組合法人 上東（高知県いの町）

- 集落営農組織主体で機械の共同利用や農作業の受託に取り組む。有望品目研究部門を設立し、全組合員が野菜作りに親しむ環境を整備。
- 何度も協議を重ね、平成31年1月に「農事組合法人上東」を設立し生産体制を強化。
- 3月末のカタシの花祭り時期に合わせ住民手づくりのイベントを開催し、都市住民との交流を図る。



農事組合法人上東 設立総会


集落活動センターゆすはら西推進委員会（高知県梶原町）

- 獣肉解体処理施設の建設とジビエカーの導入（平成29年度）。
- 鹿の捕獲は多いが町中心部から遠い松原区を中心にジビエカーを運用することで、解体処理施設への円滑な搬入を実施。
- 元ゆすはら応援隊員や移住者等の担い手人材を雇用。

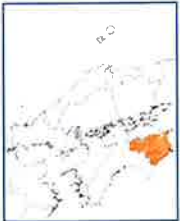
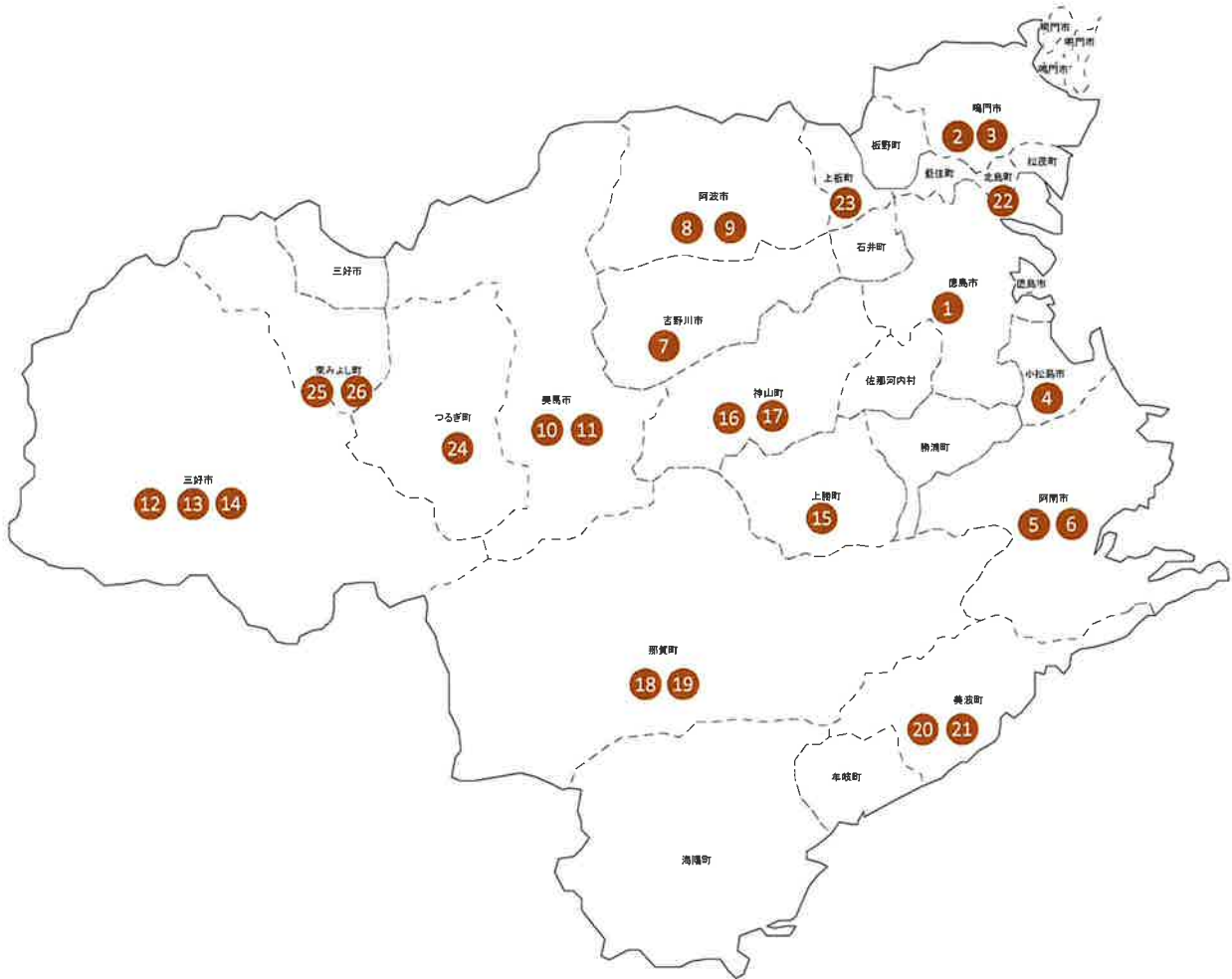


新設した解体処理施設と日本初導入ジビエカー

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第6回選定) 応募団体 一覧 (徳島県)

No.	選定地区	部門	市町村	団体名	該当する取り組み		
①		ビジネス	徳島市	株式会社 農家ソムリエーズ	6次産業化	輸出	企業との連携
②		ビジネス	鳴門市	有限会社 うずしお食品	食育・教育	輸出	食品ロスの 取り組み
③		ビジネス	鳴門市	特定非営利活動法人 山の薬剤師たち	農福連携	—	—
④		コミュニティ	小松島市	和田島漁業協同組合女性部	環境保全・ 景観保全	食育・教育	6次産業化
⑤		コミュニティ	阿南市	阿南市那賀川北岸地域広域保全協定 運営委員会	環境保全・ 景観保全	伝統の継承	都市農業
⑥		個人	阿南市	新居 希予	伝統の継承	食育・教育	教育機関との連携
⑦		個人	吉野川市	高開 文雄(高開の石積み)	環境保全・ 景観保全	伝統の継承	高齢者の活躍
⑧		ビジネス	阿波市	GOTTSO阿波	食育・教育	企業との連携	持続可能な農業に 向けてのGAP取得
⑨		コミュニティ	阿波市	吉野川善入寺土地改良区	環境保全・ 景観保全	—	—
⑩		コミュニティ	美馬市	山人の里運営委員会	農林漁業、 農村文化体験	雇用	公共施設の 利活用
⑪		コミュニティ	美馬市	仕出原自治会	環境保全・ 景観保全	輸出	教育機関との連携
⑫		コミュニティ	三好市	社会福祉法人 池田博愛会	食育・教育	移住・定住	農福連携
⑬		コミュニティ	三好市	生活改善グループ有瀬つくし会	農林漁業、農村文化 体験	環境保全・ 景観保全	伝統の継承
⑭		個人	三好市	川内 孟(川内園)	環境保全・ 景観保全	伝統の継承	高齢者の活躍
⑮		コミュニティ	上勝町	かみかつ棚田未来づくり協議会	農林漁業、 農村文化体験	教育機関との連携	—
⑯		コミュニティ	神山町	㈱フードハブ・プロジェクト	食育・教育	6次産業化	農業の担い手育成と 新規就農者の移住・定住
⑰		個人	神山町	白桃 薫	食育・教育	6次産業化	農業の担い手育成と 新規就農者の移住・定住
⑱		コミュニティ	那賀町	木沢林業研究会	鳥獣被害防止	農林漁業、 農村文化体験	高齢者の活躍
⑲		コミュニティ	那賀町	木頭杉一本乗り保存会	農林漁業、 農村文化体験	伝統の継承	—
⑳		コミュニティ	美波町	日和佐乙姫米栽培研究会	環境保全・ 景観保全	食育・教育	高齢者の活躍
㉑		コミュニティ	美波町	特定非営利活動法人 赤松煙火保存会	伝統の継承	—	—
㉒		ビジネス	北島町	はーとふる川内株式会社	雇用	6次産業化	農福連携
㉓		コミュニティ	上板町	非営利型一般社団法人 ジャパンプルー上板	伝統の継承	6次産業化	農福連携
㉔		個人	つるぎ町	西岡田 治豈	農林漁業、 農村文化体験	伝統の継承	教育機関との連携
㉕		ビジネス	東みよし 町	合同会社 法市の干し芋	移住・定住	6次産業化	高齢者の活躍
㉖		個人	東みよし 町	木下 正雄(農林漁家民宿 うり坊)	ジビエ	農林漁業、 農村文化体験	食育・教育

応募団体位置図（徳島県）



1

とくしまし
徳島県徳島市

6次産業化

輸出

企業との連携


 のうか
 株式会社農家ソムリエーズ

～なると金時世界ブランドプロジェクト～



マレーシアプロモーション



なると金時チップス おさっち。

経緯

- 約20年前と比べ、「なると金時」の作付面積が減少し、販売単価も下落した。
- 地域単位で行っていた産地形成や販売について、産地連携によるメリットを構築する必要があると考え、産地の収益性向上のため「株式会社農家ソムリエーズ」を設立した。

取組内容

- 香港、台湾、マレーシア等のアジア圏へ輸出を行い、県や地域商社と連携し、現地でイベント販売とプロモーションを実施。
- サツマイモチップス「おさっち。」を開発・販売。自社生産した「なると金時」を使用し、生産、加工及び販売を行う6次産業化を実現。
- 地域の子どもたちに栽培体験を通じた食育の推進。

活動の効果

- 「なると金時」の輸出を開始した2015年は、輸出量0.3t、輸出金額10.8万円であったが、2019年には輸出量100t、輸出金額3,600万円(見込み)に増加した。
- サツマイモチップス「おさっち。」の販売を開始した2015年は、販売数2万パック、販売金額200万円であったが、2019年には、販売数12万パック、販売金額1,200万円(見込み)に増加した。

応募団体からのアピール・メッセージ

株式会社農家ソムリエーズは「We are the Naruto Kintoki 世界一なると金時を愛する俺たち農家ソムリエーズは、なると金時で世界中の食卓を幸せにします」という経営理念を基に活動しています。

徳島県徳島市川内町平石若宮268-3 Tel:088-679-8661

有限会社 うずしお食品

わかめ発祥の街 ～鳴門わかめの伝統を紡ぐ～



体験型イベント開催(鳴門わかめの工場見学)



わかめパウダーとわかめうどんが完成

経緯

- 鳴門わかめは、千年の歴史を持つ伝統的な地場産業であるが、安価な外国産の流通増加、生産者の高齢化等、様々な理由で生産量は年々減少。
- 「加工による歩留まりの向上」、「1年を通じて販売できる製品開発」、「消費者の健康志向に合わせた製品化」、「鳴門わかめブランド再構築」に向けた活動を開始。

取組内容

- 小中学生を対象に体験イベントを実施。また、行政と民間企業の連携による地域活性化の取組みについても学習。
- 冷凍わかめをシンガポールへ輸出。ドバイでは冷凍わかめのテストマーケティングを実施。高評価を得た。
- 地域連携で商品開発に取組み、色不良等の「わけあり製品」をリユースし、「わかめパウダー」を開発、商品化。

活動の効果

- 食の適正表示に向けたトレーサビリティに取組んだ結果、消費者団体などから評価を受け、鳴門わかめのブランド価値向上に繋がった。
- 産業廃棄物として処理されていた「わけあり製品」を商品化することにより生産者や加工業者へ利益が還元され、それが社会や環境への配慮とエシカル消費への足がかりとなり、地域住民の意識向上にも繋げる。

応募団体からのアピール・メッセージ

安全・安心な「鳴門わかめ」を求める全国の消費者の信頼に応えるため、官民で組織した地域連携活動を継続して行い、商品ありきの取組みではなく、地域の世界観や社会的思想を背景にした取組みで消費行動を促していきたい。

特定非営利活動法人 山の薬剤師たち

～農・福・学の連携による明るい未来づくり～



県立吉野川高等学校との交流



共同での種まき作業の様子

経緯

○全国的に農福連携の取組みが積極的に行われる中、当事業所を取り巻く環境においては、取組みの成果が足踏み状態にあった。

原因の一つとして、障がい者に対する理解不足があると気づき、農業を営む方はもちろん、若い世代の人々と触れ合える環境をつくることが重要であると考え、活動を開始した。

取組内容

- 県立吉野川高等学校の農業科に通う学生と就労継続支援事業所を利用する障がい者が共同で農作業を行い、交流を深めた。(農・福・学の連携)
- 高校と連携構想を進める期間中に、その高校に通う一般就労に繋がらなかった学生(軽度の知的障がい)が当事業所の支援を受け、就労が可能になった。(連携と障がい者の雇用)

活動の効果

- 当初、学生たちは障がい者に対して少し抵抗感を持っていたが、農・福・学連携の取組みにより、回を重ねるごとにお互いのコミュニケーションが増え、バリアが薄らいできている。
- 学生においても、当支援事業所との連携により、トレーニングを積む機会を得られたことで一般就労に繋がった。障がい者の理解を深めてもらおうと始めた構想であるが、互いの連携で様々なメリットが生まれることを実感。

応募団体からのアピール・メッセージ

農福連携はもちろん、他の分野においても“winwin”の関係を築くための橋渡し役を担い、様々な学びの機会の提供と地域貢献のため、農・福・学の連携を働きかけます。

徳島県鳴門市撫養町斎田字西発47-10 Tel:088-679-4290

わだしま

和田島漁業協同組合女性部

～女性が活躍！和田島新名所「網元や」～



網元や営業開始の様子



新規メニュー三味丼

経緯

- 徳島県産ブランドである「阿波ちりめん・しらす」を活用した「しらす釜揚げ丼」を地産外商で社会実験として提供。
- この経験やノウハウを生かし、女性漁業者が活躍できる漁協女性部食堂「網元や」を開店し「阿波ちりめん・しらす」の消費拡大を目指す。

取組内容

- 食堂「網元や」の運営（改装計画・メニュー考案・PR 情報発信・仕入れ・調理・接客等）を漁協女性部全員の創意工夫で行っており、女性漁業者の活躍する場が確立した。
- 漁業者が直接販売することで、県産ブランド「阿波ちりめん・しらす」の消費拡大やブランド力の維持向上に繋がり、漁村の活性化の核となる拠点となっている。

活動の効果

- 漁獲高の減少により、廃業が加速化しているなかで遊休資源（空き倉庫）加工場を活用した新たな取り組み。
- 漁村地域における新たな交流拠点の確立ができたことで、観光と交流の基礎土台ができ、市外県外の人々が当該地区へ訪問するきっかけとなっている。
- 網元やへの来場者数が、H29年度2,400人からH30年度4,300人に増加。

応募団体からのアピール・メッセージ

女性漁業者の活躍を、官民や地域・組合が一体となってサポートし、水産業の持続や漁村全体の活気に繋がっています。

5

徳島県阿南市

あなんし

環境保全・
景観保全

伝統の継承

都市農業

あなんしなかがわほくがん

阿南市那賀川北岸地域広域保全協定 運営委員会

～みんなで守ろう地域の宝 農地・水・環境～



H30 11団地13haでコスモスの植栽



R1 シンボル広場 花しょうぶ・タチアオイ

経緯

- 用水路の老朽化と共に担い手の高齢化や後継者問題等に直面し、多面的機能支払交付金事業に着手。
- 15の地域保全会の活動を進める中、環境の保全や景観形成を広域活動として取り組むことの利点に着目し、古き賑わい復活の思いを達成させるべく活動を開始。

取組内容

- 幹線沿い荒地をバックフォー、チェーンソー、人力を駆使し整備。後地にヒマワリやコスモスを植栽し景観地域に変貌。
- 各地域にコスモスを植栽。(平成30年は11地域13ha)
3つのコスモス園を結ぶウォーキング大会を実施。
- 条件の不利な遊水地を活動のシンボル広場として整備。

活動の効果

- 幼稚園児や施設からの来訪者、また、花の愛好家の来訪も増加している。
- イベント時には、獅子舞保存会や各種サークル団体の発表があり、文化の保存、サークル活動披露の場となっている。
- ウォーキング大会では、①平坦コースと②山なみコースを選定し、見晴台や古道を挿入する等の工夫したこと、加えて、地元の接待等があり、参加者も増加して地域の交流の場となっている(H27年度・56人 → H30年度・226人)。

応募団体からのアピール・メッセージ

コスモスの質量、ロケーションのすばらしさを誇るウォーキングコースを多くの人に経験してもらいたい。また、シンボル広場での素敵なパフォーマンスも続けていきたい。

徳島県阿南市羽ノ浦町中庄上ナカレ18-1 Tel: 0884-24-8318

6

あなんし

徳島県阿南市

伝統の継承

食育・教育

教育機関との
連携にい きよ
新居 希予

～伝統継承者が行う『表現する農業』～



現在40歳。三人の子育てをしながら農業を行っている。

食いしん坊図絵を作成し食育、メディアで活用

経緯

- 結婚により12代続く米農家で栽培に従事し、農業の厳しさや農産物の将来性、地域の魅力などを伝えることの重要性を痛感。
- 地域の食文化を伝える食材の復活等を行いながら、わかりやすく消費者に伝える「表現する農業」の取組を実施。

取組内容

- 伝統黒米「弥生紫」の唯一の生産農家として伝統を継承している。
- テレビ、ラジオ放送局のメディアの番組コーナーを担当し、生産現場を知る強みで農林水産物の情報発信を行っている。
- 保育園、幼稚園20校と連携し、田植えや稲刈りの農業体験、毎月の食育便り発行等を行い学校教育をサポートしている。

活動の効果

- 地元ケーブルTVで番組を監修。ラジオ局の番組の中でコーナーを担当(H30年1月～)。
- 農業体験や食育には年間1,100人が参加(H30)。
- 「食育たより」は、H29年1月から毎月学校向けに発行し、R元年度見込みも含め累計25,700部となった(徳島県及び東京都計7校)。
- 米の栽培面積は当初の10倍に増加し、県内最大の無農薬米の栽培面積に。

応募団体からのアピール・メッセージ

海外展開も視野に入れ、弥生紫を超一流ブランドに仕上げながら、新たなブランド米の構築を手掛けていきます。私達の『表現する農業』が地域活性の種子となり、次世代に実り多きものとなるように育てて参ります。

徳島県阿南市那賀川町小延94-1 Tel: 088-664-1311

たかがい ふみお

高開 文雄 (高開の石積み)

宝は石？ ～石を愛し地域を活性化～



高開石積み芝桜まつりの様子 (4月)



石積み学校 高開文雄講師の様子

経緯

○急峻な山の斜面を段々畑や宅地として活用するため石積みが発達。地元の者からすると見慣れた風景であったが、2000年景観工学の専門家(大学教授等)から希少価値があるという教示を受け、地域の活性化及び後世に残す為に地域のNPOと共に活動を始めた。

取組内容

○地元のNPOと協力し、毎年4月1日から20日間程、「高開石積み芝桜まつり」を開催。
○高開石積みの美しさをライトアップしようと2001年から、12月第3土日2日間開催。
○東京工業大学 真田准教授と協力し「石積みを後世に残す」取組みの石積み指導者として、全国的に石積みを指導する「石積み学校」を開催。

活動の効果

○「高開石積み芝桜まつり」では、石積みと芝桜のコラボがいいと評価を受け、多くの県外の人も訪れるようになっている。(年に約1万人 花の開花状況や天候により変動有り)
○「石積み学校」の開催により、若い指導者も生まれ、今では県内外においても「石積み学校」を開催。

応募団体からのアピール・メッセージ

高開地区に人を呼び込める、「石積み学校」により、石積みを後世に残してほしい。400年もの間「石積み」により守られてきた地域の生活基盤や生活の知恵等、田舎の小さな「宝」を伝え、少しでも長く残していきたい。


 ごつつお あわ
GOTTSO阿波

～野菜の力で町おこし！めざせ東京オリパラ！～



2019年度PR用ポスター



小学校での食育「ナスにいい虫・わるい虫クイズ」

経緯

- 「GOTTSO阿波」は阿波市の若手農業後継者が中心となって、平成24年に阿波市観光協会の所属グループとして発足。「まちのPR隊」として活動。
- ナスの消費量は減少傾向。子供たちに好きになってもらうため、クセのない、ひすいナス「美～ナス」の栽培を始める。
- 「平成28年度とくしま特選ブランド」に認証される。

取組内容

- GOTTSO(ごつつお)とは阿波弁で「ごちそう」という意味。野菜の出張販売や広報などを行い、農業の盛り返しを図る。
- 「美～ナス」を使って、幼稚園や小学校で食育を行い、消費量増加の取組みを行っている。
- 「グローバルGAP」、「とくしま安²GAP 農産物」認証の優秀認定を取得し、東京オリンピック・パラリンピックの選手村に「GOTTSO美～[®]ナス」の納品を目指す。

活動の効果

- 自分たちが生産した野菜の価値を見直し、「野菜の力でまちおこし」という目標で関西圏、関東圏へのお出張販売や広報を幅広く行い、地域の活性化に一役買っている。
- 甘くて柔らかい果肉のひすいナス「美～ナス」は、加熱するとトロリとした食感になることから、ナスが苦手な子供にも「おいしい！」と好評。食育を通じ、農業を身近な職業として感じてもらい、野菜の消費拡大に貢献している。
- 多くの人との出会い・交流が生まれ、会員の視野はどんどん広がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

徳島県阿波市の若手農家たちが、町おこしと農業活性化に大奮闘！「農家の力でまちを元気にしたい」という熱い思いで協力し合い、農業の未来を見据えた活動を自ら行います。

徳島県阿波市阿波町東原173 Tel:090-3787-2756(寺井会長)

吉野川善入寺土地改良区

～日本一のトレジャーアイランド「善入寺島」～



善入寺島の全景



島に渡る潜水橋付近の一斉清掃

経緯

- 四国最長河川「吉野川」の中流域にある日本一の川中島「善入寺島」は、阿波市と吉野川市にまたがる総面積500haの島で、約350haが肥沃な農地となっている。年間を通して様々な野菜や水稲が栽培され、両市にとって重要な農業資産となっている。
- この「宝島」を農業のみならず、歴史、文化、景観、教育の場として次世代に継承していくため、活動を始めた。

取組内容

- 支障を来していた、農地の中の巨木を森林組合に依頼して伐採。点在している不作付地は一般市民と共同で除草。耕作しない農地には緑肥となるヒマワリやコスモスを植え美しい景観を演出。
- 島内にある「四国八十八ヶ所遍路道」の整備。(看板やトイレの設置)
- 地元幼稚園児や小学生を対象に、野菜の植付けや収穫体験を実施。阿波市、吉野川市の給食センターに野菜を供給。

活動の効果

- 雑草や害虫の巣窟となっていた不作地が市民との共同作業により改善。花々が咲き誇る美しい景観は、結婚式用の写真撮影や家族の憩いの場として多くの人に親しまれている。
- 約千二百年前に空海上人が開祖した遍路道を整備したことにより、気持ちよく巡礼できると、歩き遍路が増加している。
- 食育により子供たちの農業に対する理解を深め、阿波市、吉野川市の給食センターで使用される多くの野菜がこの島から供給されている。

応募団体からのアピール・メッセージ

日本の「サンチャゴ・デ・コンポステラ」として、歴史、農業、文化、景観を地域住民と共に守り次世代に継承する。”ようこそ！トレジャーアイランド(宝島)へ”

^{やまんと}
山人の里運営委員会

～木造校舎をリノベーション。“山人”体験！～



子ども会のピザ体験。地元食材がたっぷり。



そば打ち体験の様子。そば粉は当然、地元産

経緯

- 廃校した重清北小学校を地域イベントの場所として利用していたが、地域住民アンケートを実施した結果、「宿泊施設」として利用することとなり、施設整備を開始した。
- 「地元住民で守った思い出のある木造校舎を風化させない」その強い「思い」から、「山人の里運営委員会」を結成した。

取組内容

- 地域の木材を活用した炭焼き等の林業体験や、農業体験、本格石窯で地元産の野菜を使ったピザづくり等、様々な体験メニューを展開。
- 小・中・高・大学生や企業研修に活用。
- 地域住民のための「いきいきサロン」「健康教室」を実施。小学校時代の写真を展示し、転出した卒業生の「思い出の母校」を守る活動も行っている。

活動の効果

- 農業体験、林業体験、ピザづくり体験などの地域性溢れる体験メニューが、幅広い世代で利用されるようになり、交流促進と賑わいを創出。
- 秋から冬にかけては、星空観察や山歩きの家族連れにも利用されるほか、民間企業の長期滞在型利用も行われるようになった。

応募団体からのアピール・メッセージ

豊かな自然と、山間部で暮らすのに必要な様々な技術を有する「山人(やまんと)」の暮らしは、大変贅沢かつ豊かです。「山人」と同じ時を過ごしてみませんか。

URL: <https://ja-jp.facebook.com/Yamantonosato/>

11

 みまし
 徳島県美馬市

 環境保全・
 景観保全

輸出

 教育機関との
 連携

 してはら
 仕出原 自治会

～清流穴吹川と自然を楽しむ人気のスポット～



清流穴吹川と「しでの家」



はっさくシャーベットとブルーベリーアイス

経緯

- 平成15年に美馬市が観光・物産販売施設と駐車場(100台)を備えた「しでの家」を設立。現在、仕出原自治会が管理・運営。
- 各種支援制度を活用し、積極的に中山間地域の環境整備に取り組み、「平成16年度 優良農村集団知事賞」を受賞。

取組内容

- 自然景観と農地の維持継承のため、集落が共同で安全対策や環境整備に取り組む。
- 伝統果樹の八朔(とくしま特選ブランド認定)は、EUへ輸出。
- 「しでの家」は夏場の川遊びやブルーベリー狩りの人気スポットとなり、人を呼び込める集落を目指す。八朔やブルーベリーの加工品を販売。
- 明治大学農学部のフィールドワーク受入れ。

活動の効果

- 「しでの家」の共同運営により協調性が醸成され、集落外の人々との交流が深まることにより、村おこしの起爆剤となっている。
- 従来の個別の農作業から、共同作業へ移行中。個々の能力に応じた作業を担当し無理なく作業を実施する。鳥獣害対策により被害が減少したことで作付け意欲が回復。

応募団体からのアピール・メッセージ

他の多くの八朔産地は見切りをつけたが、昭和30年代から伝統の八朔を守り、逆に希少価値を高めた。「はっさくシャーベット」「ブルーベリーアイス」は「しでの家」の名物となっている。“清流穴吹川と豊かな自然がお待ちしています。是非お越し下さい。”

徳島県美馬市穴吹町口山字仕出原80 Tel: 0883-52-0468

いけだ はく あい かい
社会福祉法人 池田博愛会

～みんなが主役のまちづくり～



箸蔵小学校とのそば打ち交流



地域住民、行政、製薬会社との協働で十薬の刈り取り

経緯

○「菜の花プロジェクト」というエコ・リサイクル活動に参加したことがきっかけで、障がい者が主役になり農業を通じてプロジェクトの一躍を担うと共に、未耕作地の再利用による地域貢献や、地域の子供たちや住民と連携して食育や生産のあり方、成長し収穫する喜び、協働の目的を達成するために活動を始めた。

取組内容

- 近隣住民と障がい者、職員が協力し合い、菜の花やそばを播種、刈り取り、乾燥作業を実施。地元の小学生とそば打ち体験で交流。
- 搾油した菜種は、ガラス瓶に詰め、三好市のアンテナショップで「里の雫」として販売。
- 地域創生事業として展開している地域交流拠点「箸蔵とことん」で栽培したサツマイモを販売。（干し芋も販売を検討中）

活動の効果

- 地域住民や小学生、関係者と共に障がい者が仕事を行うことで、地域住民（子供～大人）の正しい理解を得るだけでなく、障がい者の工賃の向上や、自己肯定感の向上に繋がられている。
- 生涯活躍のまちづくり事業の一端を担うことで、過疎化が進む社会に歯止めをかけ、地域の活性化に繋げるための一翼を担っている。

応募団体からのアピール・メッセージ

農福連携や、移住者支援等、障がいのある人もない人も皆が主役！ 地域住民と手を取りあい、どのライフステージでも生きがいを持ち、誰もが笑って暮らせるまちづくりを目指す。

徳島県三好市池田町州津滝端1271-7 Tel:0883-72-3150

ある せ

生活改善グループ 有瀬つくし会

～絶景と山村食文化の里「あるせ」～



楽校(がっこう)の宿「あるせ」の全景



遊休農地を利用したそば畑

経緯

○休校中の旧有瀬小学校を利用し、何か活動を行おうではないかという提案に賛同した者により「生活改善グループ有瀬つくし会」を結成。地元で古くから作られていた味噌、豆腐、コンニャク、そば等を製造し、各種イベントでの出張販売に取り組む。その後、平成27年4月に廃校した校舎を借り受け、民宿楽校(がっこう)の宿「あるせ」を立ち上げた。

取組内容

- 山間部に位置する有瀬地域の食文化の再生と伝承のため、遊休農地30aを開拓し、原材料となるそば、コンニャク玉、大豆等を生産。これらを使用した味噌、石豆腐、コンニャク、祖谷そばを作り、民宿楽校の宿「あるせ」で提供。
- 国際ボランティアを受入れ、農業体験や里道の整備、石豆腐やコンニャク製造等の体験を実施。

活動の効果

- 平成30年3月、「にし阿波の傾斜地農耕システム」が世界農業遺産に認定された。また、当地域にはラフティングのメッカとしても有名な清流吉野川が流れており、美しい景観や伝統的な農業・農法を体験しようと、国内外からの観光客が後を絶たない。楽校の宿「あるせ」の利用者も増えている。
- 会員も高齢であるが、様々な活動を行い、地域の農業・農法を後世に「残そう・守っていこう!」とする意欲はだれにも負けない。今後も村の活性化のため活動していく。

応募団体からのアピール・メッセージ

楽校の宿「あるせ」を中心に、傾斜地農業の体験や国際交流等を深め、地域の歴史や文化を国内外の人々に理解してもらいたい。

徳島県三好市西祖谷山村有瀬414番地1 Tel:0883-84-1337

かわうち

はじめ

川内 孟 (川内園)

～自然が生んだ奇跡のブレンド「天空ノ山茶」～



夫妻と急傾斜地の山茶



天空ノ山茶

経緯

- 山城町上名地区では、標高300m以上の急傾斜地で自生種の茶を栽培。
- 平成26年、「日本茶AWARD2014」で、自然農法と希少性が評価され、うまいお茶部門審査員奨励賞を受賞。
- 受賞を機に、昔ながらの茶づくりそのものが「地域の宝」になると感じ、「地域ブランド」としての販路拡大と、活性化に繋げる取組みを始めた。

取組内容

- 昭和30年から60年以上も栽培している自生種の茶葉(多様な個性もつ)を原料に使用し、自然にブレンドされた香り高く味わい深いお茶、「天空ノ山茶」を製造販売。
- 肥料は山のカヤ等を敷き詰めるのみで、農薬を一切使用しない昔ながらの方法で栽培。地域内で協力し合いながら、茶摘みを行い、急傾斜地の景観維持と所得向上に繋げる。

活動の効果

- 令和元年における「天空ノ山茶」の生産量及び販売額は、平成25年に比べてそれぞれ約4倍増となった。
- 三好市の大步危・祖谷地域は、インバウンドを含む観光客が増加しており、それに伴い、お茶を含む土産品の販売量も増加している。
- 令和元年7月には、「三好やまびこふるさと会」により「三好の逸品」の登録商品に認定され、「三好の逸品アンテナショップ」において商品販売が出来るようになった。

応募団体からのアピール・メッセージ

高齢化が進む山あいの地域だが、このお茶を通じて活性化と所得向上を目指します。大步危駅を眼下に、まさに、「空」と「山」と「水」から生まれたお茶、「天空ノ山茶」を是非一度ご賞味下さい。

徳島県三好市山城町上名1924 Tel:0883-84-1274

かみかつ棚田未来づくり協議会

～集落居住を目指したかみかつ棚田未来づくり～



棚田ライトアップ・檜原の棚田2018



往還道の交流体験・大学授業と連携

経緯

- 平成23年度の第17回全国棚田サミット開催をきっかけとして、上勝町の八重地・市宇・田野々・檜原の4地区で連携した活動がスタート。
- 連携活動を継続し、平成24年度より「棚田感動ビジネスプロジェクト」、その発展系として平成29年度の「棚田未来づくりプロジェクト」スタートをきっかけに、かみかつ棚田未来づくり協議会を設立した。

取組内容

- 棚田4地区の集落拠点を食でつなぎ「星の駅」として相互PRする仕組みを展開。
- 棚田地区での交流人口を獲得し集落ビジネス環境を創造するために、棚田LEDライトアップを実施。
- 徳島大学授業と連携し、歴史的文化的資源である往還道において、学生の棚田往還交流体験を実施。

活動の効果

- 棚田地域の集落拠点として登録した「星の駅」との関連の交流人口が、平成29年度260名から平成30年度520名に倍増した。
- 過年度のライトアップ(ローソクによる1日開催)の経験を踏まえ、2018年度棚田LEDライトアップを檜原の棚田で1ヶ月間開催し、夜間交流人口の獲得の環境ができた。

応募団体からのアピール・メッセージ

「棚田未来づくりプロジェクト」は、過疎高齢化がすすむ棚田集落で、交流活動促進による元気な集落の持続や集落居住をめざします。

URL: <https://kamikatsutanadamirai.amebaownd.com/>



(株)フードハブ・プロジェクト

～地域の農業をつなぐフードハブプロジェクト～



地域の人々でつくる加工品の開発・製造



地域の人々で農業や食文化を次の世代につなぐ

経緯

- 中山間地域の神山町では、農業者の高齢化、後継者不足による耕作放棄地の増加などが大きな社会問題になる。
- 地域の農と食を次の世代につないでいくために町役場、サテライト企業、町の公社の3者が出資し、地産地食の(株)フードハブ・プロジェクトを設立した。

取組内容

- 地域で栽培した農産物を使った食堂・パン屋・食品店を運営及び地元の食材で加工品を開発。
- 新規就農者を受け入れ。
- 保・小・中学校の先生の「子供たちとやってみたい」を形にする、農業生産、加工、販売などの体験を環境保全型農業を軸に実施。
- 地元の農業高校と連携し、環境保全型農業を軸とした、農業生産、加工、販売などのカリキュラムを構築。

活動の効果

- 地域内から農産物、加工品、サービスなどの購入額が年間約2千万円(H30年～)。
- 単なる農業や飲食業に留まらない、地域の農業問題の解決、食文化の継承、雇用創出、移住促進、コミュニティの活性、次世代教育など、幅広い範囲での地域社会の課題解決を担っている。
- 地域の子供達が、神山町で農業や食に関わる仕事に興味を持つようになった。

応募団体からのアピール・メッセージ

日本全国の中山間地域に、フードハブという考えを広め、様々な地域でそれぞれの課題解決の糸口になるよう、視察の受け入れや講演活動を積極的に進めていきます。

17

かみやまちょう
徳島県神山町

食育・教育

6次産業化

農業の担い手育成と
新規就農者の移住・定住しらもも かおる
白桃 薫

～地域の農業をつなぐフードハブプロジェクト～



稲刈り体験の様子



地域の在来の小麦や野菜を使った地域パン

経緯

- 中山間地域の神山町では、農業者の高齢化、後継者不足による耕作放棄地の増加などが大きな社会問題になる。
- 地域の農と食を次の世代につないでいくために町役場、サテライト企業、町の公社の3者が出資し、地産地食の(株)フードハブ・プロジェクトを設立した。

取組内容

- 地域で栽培した農産物を使った食堂・パン屋・食品店を運営及び地元の食材で加工品を開発。
- 新規就農者を受け入れ。
- 保・小・中学校の先生の「子供たちとやってみたい」を形にする、農業生産、加工、販売などの体験を環境保全型農業を軸に実施。
- 地元の農業高校と連携し、環境保全型農業を軸とした、農業生産、加工、販売などのカリキュラムを構築。

活動の効果

- 地域内から農産物、加工品、サービスなどの購入額が年間約2千万円(H30年～)。
- 「地産地食」で地域を育て、地域で食べる食を支え、若者が日々の農作業や料理に打ち込む姿が、地域の人々の協力意識を変え始めている。
- 地域の子供達が、神山町で農業や食に関わる仕事に興味を持つようになった。

応募団体からのアピール・メッセージ

日本全国の中山間地域に、フードハブという考えを広め、様々な地域でそれぞれの課題解決の糸口になるよう、視察の受け入れや講演活動を積極的に進めていきます。

徳島県名西郡神山町神領字北190-1 Tel:088-676-1011

きさわ
木沢林業研究会

～山のお宝を活かす！！～



白皮剥ぎ作業は人の手で丁寧に仕上げる



食害のひどい山地で他団体との交流植林体験

経緯

- 那賀町では20年ほど前からニホンシカによる造林木の食害が増え、防護対策を取らなければならなくなった。
- 6年前に、1万円札の原料であるミツマタの90数%が輸入されていることを知り、国産ミツマタの生産に取り組んだ。加工は軽作業のため年齢を問わず行えるので、地域の活性化に繋がると考えた。

取組内容

- ミツマタの研究にゼロから取り組み、自生ミツマタの原木での出荷を始める。
- ミツマタの苗木づくり・下刈り・補植・除伐・収穫と一連の作業を行いながら、ミツマタ加工倉庫を建設し黒皮剥ぎ作業を行い乾燥させた黒皮を出荷できるようになった。
- 白皮剥ぎ作業まで取り組み、植栽したミツマタが収穫できるようになり、効率の良い収穫・皮剥ぎ・乾燥方法や、出荷前の完成品を質の良い状態で保存する方法の研究に取り組んだ。

活動の効果

- ミツマタ事業も6年目を迎え、他県からの視察に応じたり、視察に行ったりすることでいろいろな情報を交換し、それを作業に活かすことで事業が安定してきた。
- 地域の人たちと会話しながら作業をしたり、県外へ視察に行くことは高齢者の方々の活力となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

那賀町が日本一のミツマタ生産地になり、1万円札原料半分以上が国内産ミツマタとなるよう活動していきたい。

きとうすぎ いっぼんの

木頭杉一本乗り保存会

～一本乗りの技能をイベントで復活～



大会風景



大会風景(近影)

経緯

- 古くから木頭杉の産地である木頭地域では、バラ流しと呼ばれる一本ごとに流す方法で木材の搬出を行っており、そこから丸太の一本乗りの技能が生まれ、トラック輸送に変わる昭和30年後半ごろまで行われていた。
- 一本乗りの技術の伝承と地域おこしのためにイベントとして復活させた。かつての一本乗りの名残りが伺えるのは全国で唯一となる。

取組内容

- 「木頭杉一本乗り大会」を毎年開催し、令和元年度で32回を迎える。
- 大会2ヶ月前から毎週講習会を開催し、参加者の技能の向上、伝承を図る。
- 毎年、地元中学生に体験講習を実施し、大学生や各種団体からの体験講習も積極的に受け入れている。

活動の効果

- 「木頭杉一本乗り大会」は、他に類を見ない大会で、県内はもとより県外から毎年100人程度の参加者があり、夏の恒例イベントとして定着しており、地域外の人との交流の場となっている。
- 地元中学生への体験講習により、大会に参加する生徒が増えている。

応募団体からのアピール・メッセージ

イベントのみによる広がりだけでなく、林業との連携、地域の活性化につなげていきたい。

徳島県那賀郡那賀町木頭出原字マエダ34 Tel:0884-68-2311

日和佐乙姫米栽培研究会

～環境保全と美味しさにこだわった『乙姫米』～



田植え交流会



看板設置, 生産履歴の提出

経緯

- 平成元年、米の有利販売と地域の環境保全を目的として、農家、JA、日和佐町(現 美波町)の三者で「日和佐乙姫米研究会」を組織。
- 肥料は油粕、病害虫防除農薬の使用は3回以内として生協と協定書を結び栽培を開始。
- 消費者に農業、乙姫米の理解を深めてもらうために農業体験と交流会を始めた。

取組内容

- 田植えと稲刈り時に消費者を招き農業体験と交流会を開催。
- 乙姫米は、化学農薬及び化学肥料を徳島県が制定した慣行レベルより5割以上低減し栽培、全員がエコファーマーに認定されている。
- 栽培開始前には講習会を開催し、栽培方法を徹底。
- 生産履歴記録を作成、その年の収穫後に栽培反省会、技術検討会を実施。

活動の効果

- エコファーマーによって栽培される乙姫米は、山間部でもあり単収が他の地域に比べ少ないが、特別栽培米として買い取られる。
- 消費者と生産者が、農業体験交流会により顔の見える関係を構築しており、安定的な取引が続いている。
- 消費者との関係が生産者の栽培意欲につながり、乙姫米の栽培を通じ、地域の環境保全に寄与。

応募団体からのアピール・メッセージ

農村の原風景を次世代につなげるため、きれいな水で生物の住みやすい環境保全型農業を推進し、消費者に農業と乙姫米に対する理解を深めてもらうため、農業体験会や交流会を継続していきたい。

特定非営利活動法人赤松煙火保存会

～きてみんで できたん どしたん 吹筒花火～



奉納花火の打ち揚げ(燃焼状況)



花火の舞い散る下を若者が駆け巡る

経緯

- 美波町赤松地区は過疎化と高齢化が著しく190年余の伝統ある吹筒花火(美波町無形民俗文化財)の作り手が減少。その製造技法の衰退と赤松神社への奉納花火の継続が危惧されていた。
- 平成7年、有志により設立されていた赤松煙火保存会を平成25年に継続可能な法人として特定非営利活動法人赤松煙火保存会に再構築。

取組内容

- 五穀豊穰と家内安全を祈願し赤松神社に奉納される吹筒花火は、製造技法が地区15の花火組ごとに異なり秘伝とされる。地域を活性化し、製造技法と奉納花火を伝承する活動。
- 各種イベントでの吹筒花火の実演を通して魅力を発信し、伝統文化への理解を深めてもらう活動。
- 花火工場の見学会、花火免許の取得奨励などによる後継者の育成活動。

活動の効果

- 危惧されていた、吹筒花火の製造技法の衰退を回避し、赤松神社への奉納花火の継続が可能となり、伝統文化の保存・振興を図ることが可能となった。
- 地域住民相互のコミュニケーションを図ることにより、地域の絆を深め地域の活性化に効果があった。
- 秋まつりに帰省する人達や地域外から花火の観覧に来る人も増加し、例年700人から800人の観覧客がいる。

応募団体からのアピール・メッセージ

190年余り歴史のある吹筒花火は、地元の住民が手造りすることに特徴があり、点火され燃焼する花火の下を若者が掛け声とともに、勇ましく駆け巡る、全国の伝統花火の中でも珍しい風習になります。

徳島県海部郡美波町赤松字日浦236 Tel:0884-79-3024

かわうち

はーとふる川内株式会社

～農に障がい者の力を～



障がい者雇用農園 まごころファーム「コスモス」



商品化されたドライトマト「愛さんさん」

経緯

- 2014年から、障がい者の新規職域開発としてハウストマトの生産を開始。
- 2015年から、障がい者就労支援センターと協働し、ドライトマトの製造販売を開始(6次産業化の農福連携)。
- 2017年、「とくしま安² GAP農産物」認証を取得し、環境保全に配慮した安心安全なトマトを市場に供給できるようになった。

取組内容

- 障がい者就農を目的とした農園(大型ビニールハウス)で中型トマトを水耕栽培。
- 企業と福祉施設で就労する障がい者が連携して高品質のドライトマトを開発。トマトの生産、加工、販売を実施。(6次産業化)
- 「とくしま安² GAP農産物」認証を取得し、障がい者が安心して働ける作業環境を整備。(令和2年1月22日ノウフクJAS取得)
- 阿波吉野川青年農業者会議にて取組みを紹介。徳島労働局と連携し、見学受入れやセミナーを開催。

活動の効果

- 障がい者就労支援センターへの業務委託により、工賃向上や利用者の増加が見込まれる。
- 障害者雇用は、トマトの生産部門(アグリ事業部)において6名。トマトの収穫量は、38tから78tに増加。(H26→H30)
- ドライトマトの生産量は、70kgから150kgに増加。(H27→H30)

応募団体からのアピール・メッセージ

トマトには「感謝」という花言葉があります。チャレンジドたちが「感謝」の気持ちと「まごころ」がいっぱい詰まったトマトを育てています。どうぞ見学と応援においでください。
URL: <http://www.heartful-kawauchi.co.jp/>

かみいた
非営利型一般社団法人 ジャパンブルー上板

～人材育成で藍の6次産業化をめざす！～



とくしま上板熱中 小学校 第5期入学式



藍の種まき～根付け～刈り取り～刈飛ばし

経緯

- 上板町においても、過疎化は深刻な問題として捉えられている。そこで、活力ある地方創生を図ることが急務であるとの認識から、上板町の要請を受けて、人材育成を中心とする町の活性化を担う団体「非営利型（一社）ジャパンブルー上板」を結成し、活力ある農山村社会の実現を目指すための活動を始めた。

取組内容

- 活力ある人材を育てるため、大人の社会塾「とくしま上板熱中 小学校」を開校。
- 藍の栽培と染料生産を行い、藍染文化を伝承し、藍の振興と普及活動を実施。藍の6次産業化を推進し、その過程の中で障害者支援施設と契約し農福連携にも取り組んでいる。
- 地域資源である藍をテーマとした活性化を図る温かみのあるマルシェを開催。

活動の効果

- とくしま上板熱中 小学校の塾生は、多彩な先生による講義から刺激を受け、そのことを活力として、藍栽培から染料づくりと藍染、古民家再生、ものづくり、地域貢献活動など多様な取組みを自主的に行っている。
- 藍染文化の伝承と普及活動により、染料生産量は着実に増加しており、藍色は東京オリンピック2020の公式エンブレムに採用された。また、羽田空港国際線ターミナルでの藍染体験は多くの方から高い評価を受けた。
- 藍マルシェの開催により、人の交流が図られ、地域が活性化した。

応募団体からのアピール・メッセージ

人材育成を通じて地方活性化イベントを創出すると共に藍文化の伝承と振興を図り、藍の6次産業化を目指します。



中国四国農政局
ディスカバー
農山漁村の宝
道定地区

にし おか た はる き

西岡田 治豈

～世界農業遺産の農耕と伝統を守る～



花咲くソバ畑



歌いながら「立てずき」で庭先を叩く小学生

経緯

○県西部4市町で伝統的に続く「にし阿波の傾斜地農耕システム」の世界農業遺産への登録申請を契機に、平成26年頃から、「傾斜地農耕を実感し、伝統的な農耕行事も楽しんでもらいながら、次世代に繋いでいきたい。」という思いで活動を始めた。

取組内容

- 標高300^m、傾斜30度の急傾斜地の畑20^アで栽培しているソバの花が満開になる毎年9月下旬から10月中旬に、観光農園として一般開放し、傾斜地農耕を実感してもらっている。
- 平成27年、旧暦10月の最初の亥の日に行われる地域の伝統的農耕行事「お亥の子さん」を、地域の小学生とともに25年振りに復活させた。

活動の効果

- 人口減少等が課題になっている集落に明るさを取り戻している。
- 在京、関西及び県内の大学生が体験学習で訪れるほか、平日でも外国人を含む多くの人々が訪れる。テレビ局や新聞社も取材に訪れ、観光農園の訪問人数は、取組開始当初のH26年は60名程度であったものがH30年には152名となった。
- 次世代に「お亥の子さん」の行事が伝承されるよう、毎年地域の小学生の参加を得て取組んでいる。

応募団体からのアピール・メッセージ

そばの体験型観光農園と伝統的農耕行事の「お亥の子さん」を継続させていきたい。

合同会社 法市の干し芋

～限界集落 法市の挑戦！～



ブランド商品法市の干し芋「ほいちも」



東みよし町しごと体験ツアーの様子

経緯

- 世界農業遺産認定地である法市集落では、古くから干し芋の生産販売が行われていたが、量包装・廉価販売という商習慣が根強く、適正価格での販売が出来ていなかった。このことが集落衰退の一因になっていると考えた。
- 所得の確保、集落の存続のためには、適正価格での販売が必要不可欠であり、ブランディング・販路開拓を進め、地域資源の6次産業化に取り組むことを決めた。

取組内容

- 30代～40代の女性を「干し芋」のターゲットに決め、食品売場から雑貨店やアパレルにも展開できる量目、サイズ、パッケージを考案した。
- 平成30年度関係人口創出事業(町主催)の体験コンテンツとして干し芋づくりを実施。
- 地元中学生の体験授業の受入れ。
- 営農を核とした集落の再生を目的に、地域住民で集落活性化組織を設立。

活動の効果

- 干し芋の売上高が、令和元年度においては平成28年度に比べて約10倍となった。今後も更なる売り上げ増加を目指し活動を行う。
- 2017とくしま安² GAP取得。2018バイヤーズセレクション受賞(全国商工会連合会主催)。2018東京オリパラ食材供給候補に選定。
- 令和元年度には、集落の現状を伝えるため地元中学校で出前事業を実施した。また、干し芋づくりを体験した人が、再度集落を訪れ農作業の手伝う等、活性化に寄与している。
- 「集落活性化組織」では、鳥獣害対策勉強会や芋生産による耕作放棄地の利活用を行い、景観維持と活性化に繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

限界集落とも言われている法市集落であるが、「干し芋ほいちも」の生産販売を通して人々との交流と景観維持を行い、知名度の向上や活性化に繋げる。

徳島県三好郡東みよし町東山字法市139 Tel:080-3166-4574(山川代表)

きのした まさお

木下 正雄 (農林漁家民宿 うり坊)

～やまびこが響く農家民宿 うり坊～



慣れない農作業に汗を流す女子大生



ジビエ料理を囲んで台湾からの宿泊客と談笑

経緯

- 高齢化や人口減少が進む当集落に賑わいを取り戻したいという思いから活動開始。
- すばらしい自然が広がる、にし阿波地域で、都会の中・高・大学生等に四季折々の農作業等を体験してもらい、にし阿波地域の伝統的な傾斜地農耕や文化に対する理解を深めてもらいたい。

取組内容

- 都会の学生が班に分かれ、周辺の農家に出向き、傾斜地の農作業を体験。
- 狩猟雫の見回り体験を行い、希望者には、シカやイノシシの解体作業の見学。
- 農作業を体験した人々に、ジビエ料理を提供し、地産地消の食育を実施。
- 大学生と地元住民による当集落の課題解決に向けたワークショップを開催。

活動の効果

- 都会の学生たちに世界農業遺産に認定された傾斜地農耕を体験してもらうことで、集落の景観や伝統食文化、先人の知恵等を残していくことに繋がっている。
- 狩猟体験から、「食べる」ということは動物たちの「命をいただく」ことであると理解し、それに対して感謝する気持ちを実感してもらえた。
- ワークショップでは、熱心な討論が繰り広げられ、耕作放棄地を増やさないための新しいアイデアや当集落の新たな価値を見出すことができた。

応募団体からのアピール・メッセージ

世界農業遺産に認定された傾斜地農耕等を体験し、この地域の独特の景観や伝統、食文化、先人の知恵と工夫に溢れた田舎暮らしを実感してみませんか。